



平成 23 年 3 月

## 提案箱のご意見に対する病院からのご連絡

数多くのご意見、ご感想をお寄せいただきありがとうございました。  
ここに、ご意見についての実施状況または回答をご報告申し上げます。

### 皆さまからのご意見

救急外来で子どもの額の傷の縫合を受けた際、傷の処置などが不適切と思われる対応だった。翌日、形成外科の外来を受診し、傷に対し適切な処置を受けたが、その時に救急外来で形成外科にコンサルトすることは可能であると聞いた。最初から適切な処置が受けられるような体制が作れないのか？

### 当院の対応

救急での傷の創傷処理の際、不適切な点があり、大変申し訳ありませんでした。救急外来での縫合については、適宜、形成外科にコンサルトする体制が取られていますが、今回はその対応が選択されませんでした。理由は何であれ、自分で十分対応できない場合にはコンサルトするべきであり、今回のケースは、コンサルトするべきであったと思われます。

現時点では次のような対応が考えられます。①診療の質を第一に考え、必要な症例については専門診療科へコンサルトする体制を徹底する。②創傷処置について、外科外来を担当する若手医師に対して学ぶ機会を設定する。

当院の救急外来は専門医が救急診療に深く関わってきましたが、診療規模の増大や重症患者の増加などから診療負担が大きくなってきました。また、救急外来での診療の質を高める努力も進めてきましたが、救急外来を専任で担当する医師が採用されたのが4年半前で、今後は救急外来の診療内容を標準化し、質を保証するシステム作りを進めています。救急を専任とするスタッフを増やし、的確な救急処置が受けられる体制を整え、診療内容については当院の各専門診療科と協議を行い、常に最新で最良の医療を実現できるようにしていきます。現在、内科系や重症外傷の対応から進めていますが、今後は一般的な外科処置や就学児などの小児の診療も視野に入れて進めているところです。ご理解をお願いします。

